宗像

毎月十五日発行
発行所
宗像大社
宗像社会
〒811-3505 福岡県宗像郡玄海町
電話 0940－62－1311(代)
定価 一年送料共 1000円

秋の訪れを告げる
秋季大祭近まる

「神郡宗像」の地に実りの秋の訪れを告げ、人々の待ち望む当大社最大の祭典である秋季大祭が、いよいよ間近に迫って来た。

この秋季大祭は、辺津宮鎮座地の名を冠し「田島放生会」とも古くから称され、鎌倉初期（貞永元年）に時の大宮司宗像氏経が創始されたものと伝えられている。

それ以来、神郡宗像の民の総氏神として、また全国宗像神六千余社の総本宮として崇敬されている当大社の最も伝統ある祭として、今日迄連綿として受け継がれている。

大祭に先立ち、九月十一日に沖津宮神迎え神事があり、御座船「沖一丸」により大島中津宮へ御神璽が奉遷された。

十月一日の「みあれ祭」では、大島より沖津宮、中津宮の御神璽を奉戴した御座船を先頭に宗像郡内外の各漁協より約四百隻の漁船が、神湊迄大海上パレードを繰り広げる。

各船は、大漁旗、紅白の吹流し等で満艦飾にし、船首には波切御幣をつける勇壮なる海上絵巻である。

大祭期間中は、昭和天皇御即位の際の主基地方風俗舞や浦安舞を始め、鐘崎の沈鐘伝説にまつわる翁舞奉納などがあり、又神門前の馬場道では二日早朝に本年の収穫を占う勇壮な流鏑馬神事等の神賑行事がある。

また境内には二百軒余の露店が立ち並び、三日間に亘り多くの参拝者で賑わいを見せる。

この大祭は宗像市・郡民挙げての祭典であり、宗像大社氏子会、地方総代、郡内外各漁協を始め宗像警察署、地元消防団、福岡喜多流関係者、地元南坊流関係者等各方面の方々の奉仕と協力により斎行される。

――◇――◇――

八月二十五日には、宗像大社海洋神事奉賛会を組織する郡内六漁協の組合長、参事、水難救済会役員出席の下に、「みあれ祭」海上神幸について協議され、本年も例年同様全面的に協力、奉仕する旨決定された。

また九月十日には、宗像警察署、玄海町消防団、宗像保健所、西鉄等の関係各機関による打ち合わせ会が、開かれ、交通整理等の調整がはかられた。氏子中でも宗像大社氏子会総代総会が七日に開催され、秋季大祭に向けての準備が着々と進行している。

尚、秋季大祭中の祭典、神賑行事については別表の通りです。皆様お誘い合わせの上御参拝下さい。

秋季大祭日程

九月三十日（木）
- 午後五時　総社地主祭
- 午後六時　宵宮祭

十月一日（金）
- 午前八時三十分　中津宮出御祭
- 午前九時　辺津宮出御祭
- 午前九時三十分　大島港出港（みあれ祭）
- 午前十時三十分　神湊港到着
- 午前十時五十分　頓宮祭（雨天中止）
- 午前十一時二十分　頓宮御発輦（陸上神幸）
- 午前十一時四十分　辺津宮入御（大祭）（主基地方風俗舞奉納）

十月二日（土）
- 午前八時　流鏑馬神事
- 午前十一時　大祭（氏子奉幣・翁舞奉納）
- 午後二時　末社祭

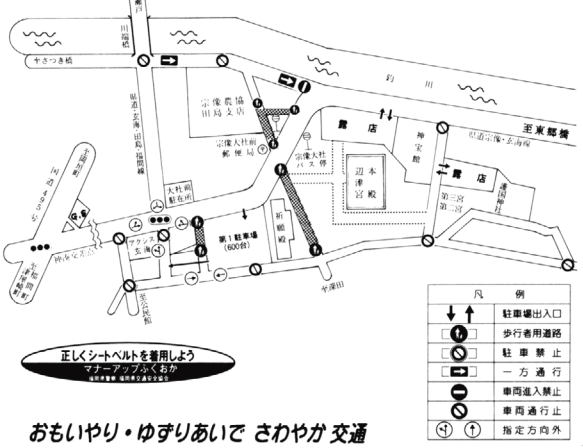
十月三日（日）
- 午前十一時　大祭（浦安舞奉納）
- 午前十一時四十分　高宮祭
- 午後二時　第二・第三宮祭
- 宗像護国神社秋季大祭
- 献茶祭（南坊流＝滝口宗芳社中）

神具・装束
結婚式場用品
株式会社 井筒
福岡店 福岡市博多区東公園一－三二（〒812－0045）
電話 福岡（092）六五一－九四五六番
本店 京都市下京区油小路六条北入（〒600－8231）
電話 京都（075）三四一－三三四一（代）－四番
電話 京都（075）三四三－三三三四一番

木の匠の家
総合建設業 株式会社 弘江組
事務所 〒811-3406 福岡県宗像市大字稲元一〇二五
電話（〇九四〇）三一－二五六七

秋祭り交通規制のお知らせ

規制日時　10月1日～10月3日



正しくシートベルトを着用しよう
マナーアップふくおか

おもいやり・ゆずりあいで さわやか交通

宗像警察署 TEL 0940-36-1110　宗像大社 TEL 0940-62-1311

海洋神事奉賛会打合せ会

残暑厳しい八月二十五日、宗像大社海洋神事奉賛会々議が、当大社斎館に於いて行われた。

この会議は、九月中旬に中津宮にお迎えする沖津宮御神璽と中津宮御神璽を、大船団を編成して辺津宮にお迎えする海上幸神事「みあれ祭」に関する打ち合せ会である。

宗像六漁協（大島・鐘崎・地ノ島・神湊・津屋崎・福間）と近隣漁協（波津・芦屋・相島新宮）を加えた計九漁業協同組合長以下関係者出席のもと協議がなされた。

沖津宮・中津宮の御神璽を奉戴する御座船は、例年同様大島と鐘崎に決定、先導船は東側を津屋崎、西側を地ノ島、供奉船は、東側を大島・地ノ島・神湊、西側を津屋崎・鐘崎・福間と決定された。

この〝みあれ祭〟に先立ち、沖津宮の御神璽を中津宮にお迎えする〝沖津宮神璽迎え〟は九月十一日に予定、大島漁協所属船奉仕とする事が決定した。

後日大島漁協より沖一丸（沖西敏明船長、一三トン）が御座船奉仕という連絡を受けた。

その他詳細事項の確認もなされ、本年も海洋神事奉賛会が一致協力し、厳粛盛大裡に「みあれ祭」を斎行する旨を申し合わせ終了した。

秋季大祭準備打合せ会

秋季大祭を控えた九月十日（金）、当大社斎館に於て〝秋季大祭打合せ会〟が開催された。

この会議は、宗像警察署、宗像保健所、宗像地区消防本部、玄海町消防団他関係諸団体に呼びかけ、陸上神幸に伴う交通の整理、境内警備等秋季大祭中の安全について協議を行うもので毎年行われている。

今年も関係者四十余名の出席のもと、年々増加する傾向にある参拝車輌の誘導や、境内の参拝者の安全を中心に、事故等無きよう万全の体制で、そして来る大祭が無事盛大に斎行されることを祈り多岐に亘り話し合われた。

〝田島放生会〟とも呼ばれる神郡宗像の秋季大祭は、十月一日の海上神幸「みあれ祭」で幕を開け、沖・中両宮の神璽の入御で大祭が始まる。

沖津宮御神璽迎え

神郡宗像に秋の訪れを感じる九月十一日、沖津宮御神璽迎えが斎行された。

前日、夕刻五時より中津宮に於いて明日の渡航安全祈願祭が河野責任役員、佐藤沖中両宮奉賛会々長、御座船沖西敏明船長、奉賛会役員、太田宮司参列のもと斎行された。

一夜明け九月十一日早朝、御座船「沖一丸」（一三トン）に「みあれ祭御座船」の船飾りと同様、船首に「国家鎮護」の大幡を立て、さらに「御長手」とよばれる紅白の吹き流しを立て、船首に「波切り御幣」、さらに国旗・大漁旗を飾り立て御神璽迎えの準備は整った。

午前八時、大島港を出港、前日の雨・風の影響もあり海上は少し時化ていたが、午前十時過ぎ、無事沖ノ島に到着した。

到着後、神職・参列者は直ちに海水にて禊をし、沖津宮にて出御祭が斎行された。

神職が奉持した御神璽を、御祓いをしながら御座船「沖一丸」に奉安し、一同大島中津宮へと向かった。

午後二時過ぎ、大島に到着し、中津宮に於いて入御祭が斎行され、沖津宮御神璽迎えは、滞り無く終了した。

中津宮本殿内陣に仮鎮座された沖津宮御神璽は十月一日、中津宮御神璽と共に御座船にて辺津宮まで神幸され、「秋季大祭一日祭」が斎行される。

一年に一度の三宮の御神璽を辺津宮に奉安し、新しい大神の御神徳を戴く〝御祭〟でこれを総称して「御生祭」と呼んでいる。

今回の沖津宮御神璽迎えに際し、御協力頂いた大島漁協、沖・中両宮奉賛会々員の方々に深く感謝申し上げます。

十月一日からの三日間は、神人和楽のもと収穫を感謝して境内は参拝者で大変賑う。この大祭に集う人々が楽しく参拝出来るよう受け入れ準備を整えることは大切である。

年に一度の宗像挙げての大祭を厳粛盛大に斎行するため一致協力する事を決議し、打ち合せ会を終えた。

余滴

現今、リサイクルの日本である。数年前（バブル時代）までの〝使い捨て〟が風靡した時代が嘘の様である。

空カン、ペットボトル、ビン、ビニール製品等々が全て細かく色・製品・種類に別けられて回収され、新しい品物となって生れ変る。これをリサイクルと呼び地球規模で行い、ゴミ防止と資源再利用に役立てようと国政規模で地球上に広がっている政策である。

この様な廃物利用は今までにも度々行われて来た事である。特に戦前迄の日本人は、全世界に誇る廃物再利用の知恵を持っていた。又その知恵と力によって敗戦と云う何も無い廃墟の中から復興し、数十年で世界に誇る経済力を持った。そのバイタリティーに諸外国は恐怖したのである。

この利用力を知る記事が新聞に載った。日本を始めて統一した中世の武将「豊臣秀吉」の廃物利用と倹約家としての〝アイデア〟を知る事の出来るおもしろい記事である。

それは、秀吉が行った歴史上に有名な「刀狩り」である。全国から集められた数十万にのぼる「刀」の鞘を大阪城の最外郭にあたる垣根に使用した、と云ふ記事である。

日本の最大武器で最高の美術品である「日本刀」の〝鞘〟は漆塗りの美しさと腐食防止を一番大切にした品である。この刀の鞘を最大限に利用し、美しさと統治力を諸大名に見せつけた秀吉の「考察力」こそ、今の世に一番大切な〝廃品再利用〟の新生力と思う。

“世界が注目ー宗像大社の菊まつり”

第35回 ㈳全日本菊花連盟全国大会福岡宗像大会
第８回 国際菊花会議
第29回 西日本菊花大会
世界の菊・日本の菊「国際菊花フラワーショー」

第三十五回 ㈳全日本菊花連盟 全国大会 福岡宗像大会

主　催　社団法人全日本菊花連盟、社団法人全日本菊花連盟宗像大社支部、福岡宗像大会実行委員会

後　援　文化庁、農林水産省、厚生省、運輸省、建設省、環境庁、国土庁、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、福岡県議会、福岡県町村議会議長会、福岡県町村議会議長会、宗像市、古賀市、遠賀町、芦屋町、水巻町、津屋崎町、福間町、玄海町、大島村、粕屋郡町長会、遠賀郡町長会、宗像市郡市町村長協議会、宗像郡町村議会議長会、宗像市議会、福岡県教育委員会、福岡県農業総合試験場、福岡県観光連盟、福岡県農業協同組合中央会、九州旅客鉄道株式会社、福岡商工会議所、九州山口花き園芸連絡協議会、九州花き卸売市場連合会、福岡県花き園芸組合連合会、福岡県花き市場協議会、玄海町観光協会、遠賀郡農業協同組合、宗像農業協同組合、津屋崎町商工会、宗像市商工会、福間町商工会、大島村商工会、玄洋福岡ライオンズクラブ、宗像ロータリークラブ、国際ソロプチミスト宗像、宗像青年会議所、宗像青年会議所シニアクラブ、神湊旅館組合、宗像地区商工会青年部、鐘崎旅飲組合、中原ガーデン、サカタのタネ、宗像郡老人クラブ連合会、玄海町社会福祉協議会、宗像大社氏子会、宗像大社菊花会、他報道機関各社、全国菊花改良専門園、地元各関係団体、その他各種企業団体等、全菊連九州地区支部連合会他。

会　期　平成十一年十一月十日(水)～十一日(木)

場　所　◎宗像ユリックス　福岡県宗像市久原四〇〇　☎〇九四〇―三七―一三一

この全国大会は毎年全国各都道府県を会場として、持ち回りで開催しており昨年は群馬県太田市、来年は富山県砺波市で開催されます。九州地区での開催は二十年ぶり三回目の大会となります。

当日は北は北海道より南は鹿児島に至る全国の愛菊家が一同に集い丹精込めて作出した菊花芸術名品を陳列展観する光景は正に極致のものといえます。

例年本州中央地区で開催され、五、五〇〇～六、〇〇〇点の出品がなされているが当地区では三、五〇〇～四、〇〇〇点の出品を見込んでいます。

この数は会場の宗像ユリックスイベントホール一杯を満たす数量になり、大ホールを埋めつくす菊花は豪華な景観を博すことになります。

出品菊花は五十部門に別れ各々の部で日本一が約三〇〇名の全菊連公認審査員により厳重な審査により決定します。

その中でも特に優秀な菊花に対し真の日本一高松宮妃殿下杯が授与されます。他にも総理大臣賞を初め多くの名誉賞が授与されます。参加者は十日早朝より会場に入り出品・審査会議・審査・テープカット・審査発表・表彰式・懇親会と忙しい一日を消化します。十日午後三時より一般公開をするが、十一日は学生・生徒・園児・高齢者及び福祉施設関係者の方々を招待します。

第八回 国際菊花会議

主　催　世界菊花協会、社団法人全日本菊花連盟

後　援　文部省他

会　期　平成十一年十一月九日(火)～十一日(木)

場　所　◎宗像大社　福岡県宗像郡玄海町田島　☎〇九四〇―六一―三二

◎宗像ユリックス　福岡県宗像市久原四〇〇　☎〇九四〇―三七―一三一

この会議は三年に一度各国持ち回りで開催されており、日本での開催は十二年ぶり二度目、東京以外では初めての大会開催となります。

前大会はニュージーランド国クライストチャーチ市で開催され、次回は宗像会議にて協議決定されます。

十一月九日宗像大社清明殿にて国際菊花会議全体会議、引き続き世界の菊花事情につき意見交換を行います。

参加国はイギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、インド、日本の七ケ国で、会議には一般の人は入場できません。

十日は全国大会の審査を行ない、五十部門の最終決定審査に立会い、日本の菊花芸術に触れるとともに製作者との栽培技術の交流をも計ることになっている。

第二十九回 西日本菊花大会

主　催　宗像大社菊花会

後　援　福岡県他

会　期　平成十一年十月二十九日(金)～十一月二十日(土)

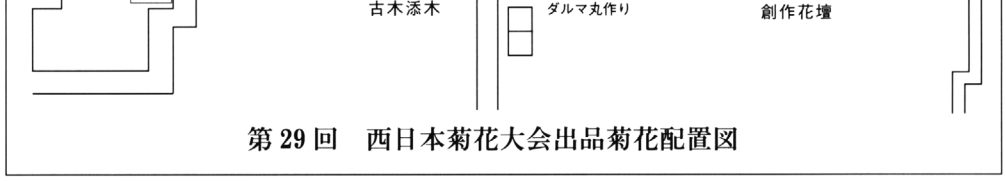
場　所　◎宗像大社境内　福岡県宗像郡玄海町田島　☎〇九四〇―六一―三二

拝観時間　午前六時～午後六時

拝観料・駐車料無料

九州・山口地区の代表的菊花製作者が一堂に会し鉢物を中心として、大輪十二鉢花壇・盆栽五鉢花壇・懸崖三鉢花壇・福助十鉢花壇・だるま作五鉢花壇・丸作三鉢花壇・千輪作三鉢花壇・古木添木作三鉢花壇・古典菊花壇・洋花壇・スプレー菊花壇・総合花壇等菊花の全てを集め総合大菊花展として毎年多くの観覧者で賑っている。この大会は西日本地区最大の菊花展の地位を確保して久しく、九州地区の菊花製作者はこの大会に出品することを最大の目標としています。

本年は全国の菊友、外国からの菊友が来福するということで、大変張り切っており例年同様百余棟の展示ハウス一杯の三、〇〇〇余鉢出品が申し込まれています。



第29回　西日本菊花大会出品菊花配置図

世界の菊・日本の菊「国際菊花フラワーショー」

主　催　宗像大社菊花会、㈳全菊連宗像大社支部

後　援　福岡宗像大会実行委員会

会　期　平成十一年十一月十二日(金)～十一月十四日(日)

場　所　◎宗像ユリックス　福岡県宗像市久原四〇〇　☎〇九四〇―三七―一三一

入場整理券　一般　前売り三〇〇円　当日　五〇〇円

小中高生　無料

前売券販売所　宗像大社、宗像ユリックス、アクシス玄海、他

第三十五回全日本菊花大会、国際会議終了後、この大会を祝して十二日（金）より十四日（日）は世界の菊・日本の菊「国際菊花フラワーショー」と称して、全国大会出品花、国際菊花会議参加国協賛菊花「第八回国際菊花展示会」、富山県福野町園芸植物園、全国農業協同組合連合会、福岡県農業総合試験場、広島県精興園、専正ロイヤルフラワーアレンジメント協賛菊花、フラワーアレンジメント、生花、宗像大社菊花会協賛菊花の大菊花展を一般公開します。

これに合わせて宗像地区物産展・菊苗・菊鉢物・菊切り花・園芸資材等の販売市も開催します。全国大会、国際大会の関連出品菊花の一般公開はこの三日間です。最終日十一月十四日（日）午後三時より出品花の販売をします。

日本一の菊が観覧出来る又とない機会です。是非とも御来場下さい。

第四五九回 宗像大社歌会詠草

大野展男選　毎月25日〆切

田久　井上　光
気象衛星の予報に見たる台風を取り巻く雲か近々と飛ぶ
〈評〉遂次、衛星からの映像を流し台風予報をしてくれるテレビ、以前のような不意打ということはないが、それだけに早くから雲の流れ形の一つでさえも気になる。四、五句を少し直したが、雲の動きをとらえ不安な気持ちをうまく詠っている。

八幡西　豊田　光子
植え置きてその秋逝きし夫想ふ子と持山に杭を打ちつつ
〈評〉植林の意志を継ぎ境界をきめる杭を打っている。杭打ちの汗を流しながら作者には苗を共に植えた夫の声がよみがえる。同じ作業をしながら母と子の微妙な心の差がある。そこが一首に見えて、そこがいい。

福　間　池浦千鶴子
前の歯を二本抜ききてさびしめどいよよ似て来ぬ母の面差しに
〈評〉原作は「似て来し父母の面差し」だが、ここは母なら母、父なら父とはっきりすべきである。一応母として添削したが、加齢とはこんなものだろう。

大　島　杉田　禮子
静かなる島にもどりしこの朝出漁準備の人影の見ゆ
〈評〉島の朝の風景を詠って心ひかれるが、一、二句は、作者が島外から戻ったのか、盆の祭りの終って戻った静けさか、そこがはっきりしないもどかしさがある。「静けさのもどりし島に」の絞し方もある。

名古屋　小田　留子
行く雲に尋ねたきあり遠き日の戦火に消えし友はいづこぞ

福　間　中村　勇
杖つけば楽と知りつつこの頃は背筋伸して散歩してをる
〈評〉上位入選に常連のお二人だが、流石に己の詠うべきものを押え、うまいものである。よどみのない絞し方は大方の参考となろう。

在　自　佐々木和彦
夜の明け青空すでに秋めきて淡き黄土色の浮き雲の見ゆ

朝　野　藤井　浩子
調整池の葦はすっかり刈られねてよしきりの声今年は聞けず

日の里　大和美由紀
青々と清しき色の大茅輪夫と並びて三度くぐりぬ

鐘　崎　安永　久子
新盆の夫迎えんと汗たらし庭師となれぬ手入れ急ぎぬ

土　穴　瀧口　敦子
三色の床屋のネオン輝きてゆらゆらゆれるガラス戸の外

八幡西　有吉　陽子
町をゆくバスの傍を若人は走りつづける夕日に染みて

武　丸　中村さつき
先生の喜寿の祝に踊るため冷房ききし部屋に稽古す

名古屋　小田　喜一
背後よりかぶさる感じに近づきて排気浴せつダンプ過ぎたり

光　岡　河村　久光
幾種もの車がとどろき往来す吾が目父の宗像バイパス

光　岡　四之宮多恵子
眞昼間に庭先にいで散策す青田の風にまじる虫の音

原　町　八波　五月
いつの間に肺癌等の出来たるか長距離選手の夫にて在りき

曲　天野　玲子
手拭を姉さんかぶりに草を焼き健やかなりし遠き日の母

吉　留　高山　信子
わが細胞生き生きとせり特攻死いとこの事をいろいろきかれ

田　野　森　つるの
稔り田に立てたる案山子役立たず雀ら平気に稲穂を荒す

福　間　二宮　末子
子供会老人クラブ七夕の短冊飾る和気合いあいと

自由ケ丘　細川絹子
金色におのが光をさざ波にかがやかせつつい日が昇る

田　野　森　甲子
日盛りを憩へるわれの耳にしむ命かき立て鳴く蟬の声

池　田　小田　イセ
軽がると脱皮のあとを木に架けて去りてゆきしは青大将か

光　岡　竹浦　葛明
定められる荷物を積みて途絶えなく深夜を走るトラックの列

光　岡　古森テル子
雲たるる木蔭に蟬の止りしが頻りに啼きぬ土用の丑の日

＝奨学生だより＝

宗像高校三年　福田真希子（日の里中卒）

中学三年生の時、高校に入ったらお金がどうしても必要になるので小遣いを増やしてもらわなければならないけれど、家にそれ程余裕がある訳でもないのでどうしようと思っていたところにこの奨学金の話があったので母に話してみたところ、母も昔この奨学金を頂いていたことがわかったので自分も頂けたらいいなと思いました。

私は昔、今に比べて怠惰で行動が遅い性格でした。私は自分の性格が嫌いで、何にでも一生懸命な人に出合うと劣等感を感じていました。部活動にも入っていましたが、一年の途中でやる気がなくなって辞めました。

私は、中学三年の時の担任の先生が大好きだったので、中学の先生になりたいという夢がありました。けれども高校で進路の勉強をするうちに、教師になるのは難しいということが解ってきました。

また、最近はよくテレビなどで『学級崩壊』という言葉が見られ、生徒がだんだん教師の言う事を聞かなくなっている事が解りました。だから私は、「先生なんてやる気のない私に出来るはずがない。」と考えて、夢の事などうでもよくなっていました。

そんな時に、私は去年の三月に亡くなった祖父が若い頃、教師をしていた頃の写真を見ました。口数が少なく、静かだった祖父が生き生きとしている姿を見て私は「やっぱり先生になりたい。」と思いました。

夢がはっきりすると、おろそかにしていた勉強を前よりするようになり、部活をやめて不健康だった体を改善するために、軽い運動をするようになりました。そのうち自然に自信が持てるようになりました。

私は自分の夢のために奨学金に感謝し頑張ろうと思います。ありがとうございました。

宗像高校二年　榎本　悠樹（城山中卒）

僕は今、福岡県立宗像高校の二年です。

宗像高校は進学校で、毎年国立大学にたくさんの合格者が出ます。さらに部活動も盛んで様々な部活が県内で上位の実力があります。

僕はバスケットボール部に所属しており、毎日とてもきつい練習をしています。その上、授業に遅れないように予習・復習をしていたら暇な時間など全くありません。

このように普段とても大変な日々を過ごしているので、宗像大社の奨学金を預けるのはとても有難いことだと思います。

僕は将来は学校の教師を目指しており、出来れば地元の学校でバスケットボール部のコーチをしてみたいと思っています。いつかこの夢を叶えて宗像大社へ祈願成就の報告をさせて頂き、教師としての立場から地元の発展に少しでも協力したいと思っています。

玄界高校二年　関根　宏（福間東中卒）

僕は宗像大社の奨学金をもらえてとてもうれしいです。このお金はありがたく使わせて頂いています。だからこれからも何事にもがんばっていきたいと思います。進路については、がんばって大学に行きたいと思っていますので、これからもよろしくお願いします。

御礼

此の度、当大社奨学生（第二十八期　現在福岡市東区在住）の日高鯛子様より御浄財の奉納がございました。

当社の奨学金制度は去る昭和三十五年に、当時の皇太子殿下（現平成天皇）の御成婚を寿ぎ、慶事記念として始められ、今年度で四十期・五九五名を数えています。

今後の奨学生育英資金としてこの御浄財を活用させていただきます。

紙面を以ちまして厚く御礼申し上げます。

大社の奉納刀（九）

仙　寿

福岡藩主黒田家は代々、宗像三神に対する崇敬の念篤く、大宮司氏貞公亡き後の疲幣した宗像宮に対し社殿の修理復興、御供田の寄進、刀剣類奉納等、種々復活の手を差し伸べていた事はすでに述べた通りである。

第十一代藩主、黒田長溥公は天保五年（一八三五年）から明治二年（一八六八年）まで三十三年間、江戸時代の最後を飾る名藩主であった。その功績を縷々述べる事は控えるが、王政復古の気運著しい慶応元年、沖津宮に一振の刀を奉納している。それには「筑前国住又左衛門尉義一作」指し裏に「文久元年二月日」と刀銘に切られているが、長さ・反り具合、拵から太刀として奉納されたと考えられる。

信国義一は筑前信国初代吉貞の長男、平四郎吉政の直系の末裔で、十代目に当る刀工である。

作柄は、刃長七五・五糎、反り、二・七糎、先巾一・八糎、元巾二・九糎、鎬造り鎬巾せまく中切先、腰反り気味の堂々たる太刀姿である。地鉄は小板目肌良くつんで、綾杉風の肌が所々に交じり地景が入り、鎬地は柾がかる。刃紋は、焼巾広く、のたれ互の目乱れ、沸深く互の目に足良く入って、刃ぶちに砂流しと、芋蔓状の金筋が多く働き、相州伝を示している。鋒は中鋒、鉋子は焼巾広く表は掃きかけ、裏は尖り心に深く返える。

これには作成当時のままの、桜皮塗鞘に金覆輪を施した烏銅太刀金具を付けた陣太刀拵があり、目貫や諸金具には、楢の葉紋が金象嵌され見事である。江戸時代の奉納刀の中で、生のままで唯一残っている拵であり貴重である。

この義一の子で、十一代目の義直作の刀がある。何時の頃、誰が奉納したのか不明であるが、手入前は赤鰯状に真赤に錆付いていた。

刃長六七・九糎、反り一・五糎、先巾一・一糎、元巾二・一糎、地鉄は板目肌良くつみ指し裏、物打ち下に柾目状の大肌が交じって、鎬地は柾目となっている。刃紋は中直刃、小沸深くつき盛んに砂流しがかかっている。鋒は中鋒、鉋子は直に砂流しが二重、三重にかかり、掃きかけ風となり返りは浅い。銘は指し表に「筑前国源信国義直作」とある。

死児の齢を数える様で心苦しいが、終戦時の混乱期に、筑前信国派に限っても重真、重包、包次（以上新刀）美昌、久国、義昌、義一（以上新々刀）等、十振余りの刀が失なはれた事は、惜しみても余りある所である。

一誌一話 (81)　古代豪族の奥津城(5)

樂　岑　子

「魏志倭人伝」を見ると、景初三（三九）年、魏の皇帝が「親魏倭王」印と鏡百枚を卑弥乎に贈ったとある。また「倭国、今三十国よりなり、昔百余国であった」と、記載されている。

弥生時代も後半になってくると、段々と「ムラ」が固まりながら、「クニ」として形ち造られてきた。

四世紀に入ると、時代も変わり、名称も「古墳時代」となる。

この頃、倭国は地方豪族の群雄割拠に寄る地方分割の社会形態から、畿内を中心とした「大和王権」による統一国家成立へと歩を進めている。古墳時代は弥生時代の延長ではあるが、人々が完全に定住して、組織を拡大していく生活基盤が、確立してきたのである。

この頃、大型の前方後円墳が近畿地方で構築され出し、墳墓形態が大きく変貌してくる。

宏大な墓域を持つ巨大な墳丘の出現である。これこそ国家統一に掛ける意気込みと、強大な権力と権威の象徴であり、それを誇示する姿である。

畿内から発生してきた大形の古墳が、各地へと派生し、各豪族の領袖の墳墓として作られていく。これにともない生活様式や生活形態も、大きく変化してきたようで、この事は、後の時代の専業職業集団「部」の起こりへと、受け継がれて行く。

宗像地方は、平野部も少くなく三方を山稜に囲まれている。先の縄文時代、弥生時代の生活址をみると、現釣川の支流の丘陵やそれが作り出した谷間の辺りに点在して、生活していたようである。ところが、古墳時代前期と言われる四～五世紀になると、大形古墳が海岸線上に並べたような形で造られてくる。また海上遥かに遠くの沖ノ島での祭祀で分かるように、社会生活に一大転換があったことを明示している。

沖ノ島では四世紀代から大祭祀が行われだした。

沖ノ島の神への奉献品が、王候の古墳への副葬品と同様な品々であった。

特くに、奉献品は畿内の古墳に副葬されている品々と同一であった。

これが沖ノ島祭祀の特徴であり、早くから大和王権と関りを持ち、宗像は畿内型文化圏に組み込まれていた事例である。

沖ノ島祭祀を見ていくと、古代宗像族と大和朝廷との繋がりが見えてくるし、海人族とも言われている当時の人々の、海を相手にした生活を想い浮かべることが出来る。

当時の宗像の海岸線に、内陸部にも多くの古墳が造られているのは、生活地が早くに高地から低地へ、山から里・海辺へと下降した証明であり、生活変化の表われである。

当時の生活の跡を見せ付けるのが、道路に沿って走る多くの古墳群である。

玄海町神湊の神湊古墳群（五世紀代「上野一号墳」から津屋崎町宮地の宮地嶽神社奥の院と言われる宮地嶽大塚（七世紀後半代）まで、直線を走るようにして並べ造られている。これが海を見守る宗像族の奥津城である。

宗像大社歌会 俳句作品集（四三五）

湖にうつす姿や松すずし　自由ケ丘　細川　絹子

遠花火音だけ聞きて立秋に　小笹　山下しづえ

早朝の山揺らぎけり蝉の声　福間　森　清

日の里　花田いつ枝

鬼灯をぐぐと鳴らせり笑ひけり

東郷　吉武　湧泉

爽やかに明治の気骨矢はずぶ

東郷　吉田　衿子

天にそる千木日を反し梅雨晴るる

東郷　吉田　杳子

夜の列車酔客一人夏の果

東郷　三浦美千代

青葉して大るり子るり四十雀

東郷　田中　雨葉

楡若葉どこかがそよぎ大樹なり

東郷　木原　房子

梅雨ふかし和紙の里なる紙人形

（続）浜の寄物 140

いしいただし

東北を歩く（3）

青森・下北半島　佐井

恐山入山券五百円を払って入る。恐山は宇曽利湖（火口湖）のそばにあり、本尊安置殿（祈願祈祷の道場）を中心に宿坊、道場があり、湯治の薬師の湯、花地獄、賽の河原、宇曽利湖のそばには極楽浜となっている。

地獄は湯煙りをあげ、硫黄臭が漂い、ちょろちょろと流れる小川は熱い。卒塔婆、お地蔵様、積石、その周りには風車がカラカラと舞い、供物に群がるカラスと、荒涼とした地獄の雰囲気がある。

開山は慈覚大師（円仁、七九四―八六四）と伝えられているが定かではない。「民俗学辞典」によれば、江戸時代中頃に篤の田名部の円通寺が管理している。下北半島を支配していた修験道が地方農・漁民の素朴なお山信仰に関与していたという。

南部地方では、ここを死染の湯、古滝の湯、更に修羅地獄、重罪地獄、血の池地獄、賽の河原、宇曽利湖のそばには極楽浜となっている。

地獄は湯煙りをあげ、硫黄臭が漂い、ちょろちょろと流れる小川は熱い。卒塔婆、お地蔵様、積石、その周りには風車がカラカラと舞い、供物に群がるカラスと、荒涼とした地獄の雰囲気がある。

開山は慈覚大師（円仁、七九四―八六四）と伝えられているが定かではない。「民俗学辞典」によれば、江戸時代中頃に篤の田名部の円通寺が管理している。下北半島を支配していた修験道が地方農・漁民の素朴なお山信仰に関与していたという。

南部地方では、ここを死霊の止まる山といい、近年まで人が死んだことを「田名部へ行った」とか「恐山さいぐ」といい、死者が出ると屋根にのぼり、恐山の方を向いて魂呼びをしたそうである。

恐山で知られているのは盲目の巫女（イタコ）の口寄せである。総門の左手にテントを仕切って十人ほどのイタコが観光客を相手に口寄せをしていた。七月二〇から二四日の夏の大祭と、秋詣り（十月九日―十一日）には、県外からもイタコが集まり、信者や各地からの観光客を相手に賑う。

イタコは盲目の女性霊媒師で、幼児の時に高熱や眼病で失明した女性が修業して、口寄せの技を修得するものである。近年医学の進歩で眼疾による失明は減少し、現在では全盲のイタコは少ないそうである。

イタコの口寄せは意外に新しく、明治から大正頃という

恐山信仰は大別すると、現世祈祷、死者供養、湯治である（民間信仰辞典）

夕刻もせまり、しとしと雨が降りはじめたので、途中の釜臥山（標高八七九メール）は視界も悪いというので断念した。

翌日は快晴で風もなく、下北半島巡りである。平日で夏休み前ということで、定期観光バスも八名ほどであった。半島にある「佐井」まで快適にバスは走り続ける。途中「熊出没」の看板や、下北半島を北限とするニホンザルが森林を、かけめぐる姿も見られた。

佐井（青森県下北郡佐井村）に到着、昼食をした津軽海峡文化館内に、本州北限の博物館「佐井村海峡ミユウジアム」があったので見学した。

佐井は津軽海峡をはさんで北海道と対峙している。江戸時代には蝦夷地（蝦夷のアイヌは、中国黒龍江下流域の山丹人との交易があり）との交易の中継地であった。展示物にはそれらの交渉を物語る龍紋蝦夷錦や龍紋七條袈裟、青玉（アイヌ玉、樺太玉と呼ばれる。江戸で珍重され煙草入れや、巾着の根付に使用）や北前船関係の文物・佐井八幡堂遺跡出土の石鏃や石槍類が展示されていた。出土した箭根森八幡宮の社名は、矢根石と呼ばれた石鏃に由来するという。ここの矢根石は弄石家木内石亭や、旅行家菅江真澄の書にも紹介されていると、パンフレットには書かれていた。

仏ケ浦観光船出航時間まで少し時間があったので、村の周辺を少し歩いた。漁具の沈子（おもり）が、どんなものが使用されているかという関心があったからである。網干し場をのぞいたが、玄界灘岸とほとんど変わりのない鉛製や陶磁製である。捨てられていた「自然石」を使った沈子は、記念に二点拾ってきた。

仏ケ浦は、下北の厳しい自然をよく示し、奇岩奇石自然の芸術品であった。観光客の驚きの声を幾度も聞えた。

呆れ果て
おどろき果てて仏宇陀、
念仏申す外なかりけり

大町桂月

青柳種信著 平野国臣写 瀛津島防人日記（下巻ノ十二）

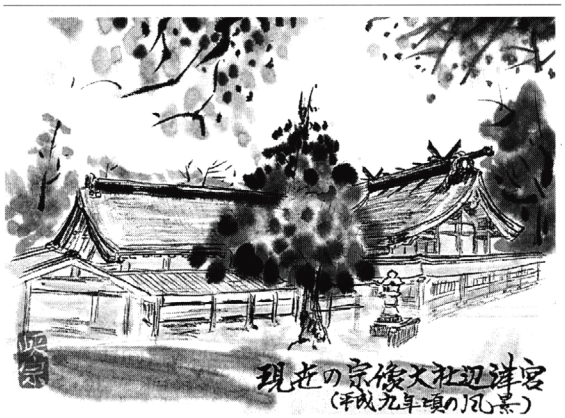
※飛鳥清見原朝（天武）の御世に姓の朝臣＝こは考に胸形君徳善といひし人の女尼子娘といひしは清見原天皇の妃にして、高市皇子命を生玉へり。此よすがにして朝臣を賜へりしなるべし。※

此氏人当郡に多くありて、郡領に叙し、そのうちいさぎ（廉直）よき人を選て、此社の神主とし玉ひて、従五位に叙せられしこと、続日本後紀等に見えたり。

中頃までも、宗像氏に二人の大きなる勢ひの人有しこと、宗像記にいへり。大宮司の家一人となりしは、いづれの比のことなりしにか。尊氏都を追出されて、纔の兵を率て此国に落下られし時、大宮司氏俊力を添て、遂に筑紫の軍兵を起して、京を傾け奉りし事、そのをりの書どもに見えたり。これよりひたすら武士の如くなりて、ますます富栄えぬ。

大かた、氏俊の時よりや、一人のかたはおとろへけん。今宗像氏に伝ふるには、延喜天皇（醍醐）の子に、清氏といふ人あり。此人、大宮司の宗祖にして、近代氏直迄七拾九代祭祀を掌りしといふ。いともいともいぶ（不審）かしき事也。

延喜の御時より天正の比まで、七拾九代経たりといふは、一人の世餘りに短くして、いかにぞや聞ゆ。思に旧事記に、吾田片隅命の弟に健飯賀田須命あり、此人は大田々祢古命也。これ大神氏にして、瑞籬宮天皇（宗神）より正親町天皇まで九十八代経ぬれば、宗像の七拾九代は、大かた此間の事にして、清氏といふは、吾田片隅命が、その御子あたりを伝へし誤りしならん。清氏といふ人、物に見えたる事なく、延喜の皇子にはおはしまさぬをや。凡、家々の伝説には私言多くして、ややもすれば皇孫と名のりて、尊氏と認る事、世々の史にもみえて、上代にもこれを偽り犯せしこと多し。まして源平の比は、武士の伴主氏を出て遠からずといふ事を、家の光とせしことなりしかば、宗像朝臣をも、皇孫ならぬ事を物げなくおぼえて、かの源氏と等しく、人にも誇らんとて、自ら延喜の皇子の裔也といひし成へし。此御社をも、古は八幡宮とさへ申奉りしぞかし。



「神郡宗像＝宗像大社末社めぐり」

はじめに

往古より宗像郡は「神郡」と呼ばれた。この「神郡」が制定された歴史をひもとくと、遠く大化の改新・律令制度にさかのぼる。

天智天皇（第三八代）が即位され、大化の改新が行なわれ、律令制度が制定される。人民を始め、皇族・豪族の所有地が「公地・公民」となり、京師（都）と畿内（都周辺の国々）を定め、全国を国・郡・里の行政組織とし、戸籍・計帳を作り、班田収授を行う租・庸・調の税制が設けられ、天皇中心の中央集権体制が確立し、律令が次々に制定されて、律令時代に入ってゆく。

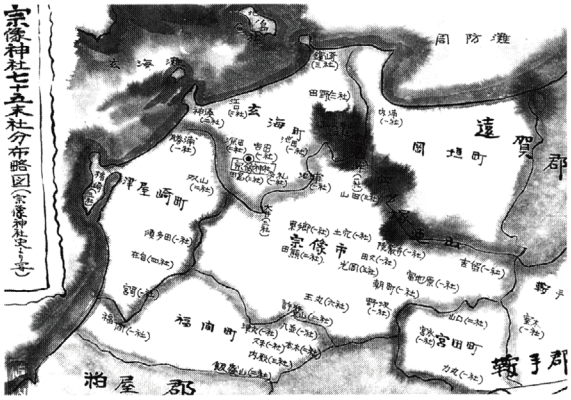
こうした中で、大化五年（四六九）に神郡制の制定を見、全国にある神社の中から特に朝廷の崇敬深い神社のある「七社・八郡」を「神郡」と定める特別なはからいがなされた。

この「七社・八郡」とは

(一) 伊勢大神宮＝伊勢国渡会郡
　　伊勢国多氣郡
(二) 安房神社　安房国安房郡
(三) 熊野神社　出雲国意宇郡
(四) 宗像神社　筑前国宗像郡
(五) 鹿島神宮　常陸国鹿島郡
(六) 香取神宮　下総国香取郡
(七) 日前・国懸神宮　紀伊国名草郡

この七社・八郡が「神郡」に定められたのである。

九州では宗像郡が唯一の「神郡」に定められ、一郡



年、第八十代大宮司氏貞公が歿せられ、さらに天正十五年の豊臣秀吉によって社領が公領として没収されてから、宗像神社は急速に衰微の一途をたどるのである。

中世以来当宗像神社に管轄されていた、宗像郡内外のゆはゆる七十五末社、或は百八神の維持経営まで手が届かなくなり、前代以来、本社と特殊の関係にあった、織幡神社・許斐神社・孔大寺神社・宮地嶽神社といふような神社を除いては、殆んど全部が宗像神社との関係を離れ、それぞれ各部落の産土社（鎮守社）として独立の形をとることになって行く。

世の流れは江戸から明治に移り維新から大正・昭和の敗戦さらに平成へと変って来た中で、末社と呼ばれた七十五社、百八神の鎮守の森も大きく変遷して来た。

この摂社・末社の現況を調べ、各社の由緒を「宗像神社史」「筑前国続風土記・附録・拾遺」「太宰管内志」「宗像郡史」より抜粋し、「宗像神社史」上巻の「明治時代以降の境内摂社・末社の現況」に合せ、順番に現地をめぐり各社を参拝して、その手記を掲載する。